

日本遺産③ 鎮守府 横須賀・呉・佐世保・舞鶴

日本近代化の躍動を体感できるまち

小栗上野介と ヴェルニーがつくった製鉄所



横須賀製鉄所ではフランス人技師の指導で地元の土かられんがを焼成。「ヨコスカ製鉄所」と刻印された国産最古級。

四つあった鎮守府で 最初に開庁した横須賀

明治の富国強兵のもと、日本海軍は艦隊を統括する後方機関として鎮守府を設置、全国に四つ設置した。明治17(1884)年に旧軍港都市で最初の鎮守府が横須賀に開庁し、その後、明治22(1889)年に呉と佐世保に、明治34(1901)年に舞鶴が開庁した。

東京湾の入口に位置し、帝都を守る横須賀鎮守府開庁の契機は、江戸時代末期に建造が始まった横須賀製鉄所(造船所)であった。建造に深く関わったのが幕府旗本の・小栗上野介忠順である。

日米修好通商条約批准のため、使節として米国に渡った小栗は、ワシントン海軍工廠なども見学し、日本との国力の差を痛感する。帰国後、勅定奉行を命じられた小栗は目前で

艦船を製造できる製鉄所(造船所)建設の必要性を強く訴えた。

主張は受け入れられ、小栗はフランス公使ロッシュが推薦した技術者レオンス・ヴェルニーと協力しながら計画を進める。他にも候補地があったというのが横須賀が選ばれたのは、フランスのツーロン港と地形が似ていることが大きかったという。

小栗は戊辰戦争時に群馬の高崎で捕縛され斬首される。しかし、事業は明治新政府に引き継がれ、明治4(1871)年に完成、横須賀造船所に改称された。

敷地は現在、米軍基地内にあるた

め一般の立入は制限されているが、伊豆石でつくられたドックはいまも現役。艦船がないときは湾内を一周する「YOKOSUKA軍港めぐり」船上から眺めることもできる。

JR横須賀駅を降りると目の前にヴェルニー公園が広がる。園内に建つヴェルニー記念館には当時、オランダから輸入された2基のスチームハンマーが展示されている。平成8(1996)年まで現役だったもので、国の重要文化財に指定されている。園内にはまた、小栗とヴェルニーの胸像が並んで立ち、横須賀港を静かに見つめている。



JR横須賀駅に臨むヴェルニー公園には、小栗上野介とヴェルニーの胸像が並んで立つ(右)。公園内に建つヴェルニー記念館には慶応2(1866)年にオランダから輸入されたスチームハンマー(左)が。平成8(1996)年まで現役だったという国の重要文化財(ヴェルニー記念館所蔵)



横須賀製鉄所につくられた日本初の石造ドライドック。石材は伊豆から運ばれた。現在は米軍基地内になるが、いまも現役である。



軍港と街の発展を伝える当時の観光地図「横須賀港一覽繪圖」。明治12(1879)年のもので明治39(1906)年まで何度か刊行。現在9版が確認されている。横須賀市自然・人文博物館で展示(横須賀市自然・人文博物館所蔵)

旧横須賀鎮守府会議所・横須賀海軍艦船部庁舎(左)は昭和初期の建設。入口には当時の表札が。旧横須賀鎮守府庁舎(下)は関東大震災後の大正15(1926)年に建てられた鉄骨製で当時最先端の耐震建築。2棟とも現役ながら米海軍横須賀基地内のため見学は不可。



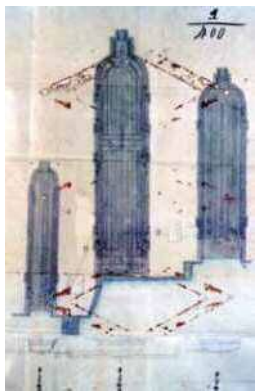
SPOT



立ち寄り所

横須賀市 自然・人文博物館

京急横須賀中央駅から徒歩約10分のところに建つ三浦半島の自然と人文にかかわる資料を展示する博物館。日本遺産の構成文化財である横須賀製鉄所の赤れんがや近代造船所建築図面資料230点なども所蔵。入館無料【住所】横須賀市深田台95【電話】046-824-3688【開館】9:00〜17:00。月曜休館 <http://www.museum.yokosuka.kanagawa.jp/>



近代造船所建築図面も日本遺産に。当時の海軍の技術力がわかる資料だ。西洋の技術をどのように吸収したかをいまに伝えるもので、横須賀造船所の技手の旧蔵資料、横須賀市自然・人文博物館にて一部が展示されている。横須賀市自然・人文博物館所蔵



歴史的軍事遺構が残る 米軍が駐留する港町

近代国家への脱皮を図る明治政府は海軍力の増強に着手した。四つの鎮守府はいずれも急峻な山に囲まれた懐の深い湾を有し、波も穏やか。大型艦船も安全に進入できる水深を併せ持っていた。

江戸時代、横須賀の南に位置する浦賀には奉行所が置かれていたが、横須賀はのどかな半農半漁の村。急速に近代の軍港都市として整備され、造船所を中心に街がつくられ、周辺には防衛設備も築かれていく。

記念艦三笠が展示されている三笠公園の棧橋から、船で10分ほどの海上に浮かぶ猿島もその一つだ。いまは無人だが、古代には人が住んでいた跡も残る小さな島で、東京湾入口に浮かび、浦賀水道に臨む絶好の位置にあることから、江戸幕府は台場を設置していた。

明治になり砲台や兵舎、弾薬庫などがつくられ、いまも遺構が残り往時を偲ぶことができる。島からはまた、浦賀水道に浮かぶ第一、第二海堡を望むこともできる。

大正2（1913）年に完成した田戸台分庁舎は、横須賀鎮守府司令長官の宿舎だったところだ。現在は海上自衛隊横須賀地方総監部の管理下にあり、普段の立入は制限されている。毎年、桜の季節には一般公開され、和洋折衷の美しい建築を見学することができる。

鎮守府を維持するために整えられたインフラは近隣住民の生活向上にも貢献した。ヴェルニーの開発に始まる走水源地の水は「ヴェルニーの水」と呼ばれ、いまも水を汲みに来る人が絶えない。

明治時代に海軍が洋食を日本風にアレンジしたカレーや、太平洋戦争後に駐留を始めた米兵たちへの土産物として制作された「スカジャン」なども横須賀を象徴するものだ。

そのような、異国情緒漂う横須賀の街をもっとも特徴付ける場所が、どぶ板通りである。米海軍基地に近い、ヴェルニー公園と三笠公園の間に位置する商店街で、グルメやショッピング、エンターテインメントなどのミックスカルチャーな雰囲気が楽しめる。

SPECIALTY



名物

よこすか海軍カレー

海軍がルーツの日本のカレーライス。兵隊の脚気防止に軍医が考案したという。明治41（1908）年発行の「海軍割烹術参考書」にはレシピが掲載され、それに基づきつくられた「よこすか海軍カレー」。市内45軒（平成28年9月現在）の店でそれぞれ特徴のある海軍カレーを提供。「かながわの名産100選」の一つ。



海防の要として 軍港とともに 発展した横須賀

東京湾要塞の猿島砲台（右上）は明治17（1884）年完成。8年後に起工した千代ヶ崎砲台跡（右下）とはつくりにも変化が。ともに国指定史跡で、港から定期船のある猿島は見学可。軍港の南、観音崎・走水地区にある観音崎砲台跡（左上）は西洋式では最古の近代要塞。走水砲台跡（左下）を含めたこれら砲台跡は日本遺産に。



SPOT

立ち寄り所



どぶ板通り

地元の人が「ベース」と呼ぶ米軍基地に向かって、京急汐入駅から延びる商店街。戦前、海軍工廠より厚い鉄板を提供してもらい、どぶ川の上に敷いていたことからこの名前が。戦後は米兵相手の商売で繁盛し、日本の文化がミックスした独特の雰囲気醸成。多彩な業種の店舗が軒を連ねる、多国籍感溢れる一角だ。



写真の田戸台分庁舎を設計し、板井小太郎は、横須賀鎮守府司令長官官舎（現・入船山記念館）も手がけている。鎌倉にある古民家「日本遺産文化財の一つ」も板井の設計。



海軍工廠の入口にあった旧横須賀海軍工廠庁舎。関東大震災からの復興に建てられた配管経路で、当時の海軍の技術力を示すもの。現在も本堂によって使用されている。

SPECIALTY

名物



横須賀のスカジャン

胸や背中にタカやトラ、龍といった派手な刺繍を施したヨコスカのスタジアムジャンパー「スカジャン」は、軍港の街・横須賀の文化を象徴するファッション。終戦後、米兵に土産物として売られるために考案されたのが始まりという。発祥のどぶ板通りにはスカジャンを売る店が軒を連ねる。



走水水源地の煉瓦造貯蔵池。明治35（1902）年の建設で道路反対側の駐車場には水栓が設置されている。走水水源池は全国的にも珍しい海を臨む低地である（写真提供：横須賀市上下水道局）



明治41（1908）年築の走水水源池の浄水池。鉄筋コンクリート製では、現存するもので国内最古級。見学はできないが遠望できる（写真提供：横須賀市上下水道局）



関東大震災で水没した海上砲台「東京湾第三海堡」の構造物を引き揚げ、一部が三笠公園の南に位置するうみかぜ公園内に移設された。



旧横須賀軍港逸見止場衛門。銅板葺屋根を持つタイル張りの建物は衛兵の詰所だった。明治末から大正初期の建設で、当時の表示板も残る。

シブタミナールを出発し、米海軍横須賀基地の横を通過し、吾妻島をぐるりと周って、船越地区（海上自衛隊司令部）の様子を眺めた後に明治時代に旧海軍によって掘削された新井堀水路を通過してターミナルへと戻る「YOKOSUKA軍港めぐり」。

米海軍と海上自衛隊の艦船を間近で見られる横須賀ならではの貴重なツアー。タイミングによっては空母が見られることも。専属の案内人による船内生放送ガイドが人気で、歴史についてや艦船の情報を分かりやすく解説してくれる。1周約45分のクルーズだ。ツアー終了後は「海上自衛隊カレイドシリーズ」などのお土産もチェックしたい。



新井堀水路をゆく船【住所】神奈川県横須賀市本町2-1-12【電話】046-825-7144【営業】11:00～15:00で1時間に1便、無休【乗船料】一般1400円 <https://www.tryangle-web.com/>

ミニコラム 艦船を間近で見られる YOKOSUKA軍港めぐり

散歴歩

その他おすすめ スポット&情報

JR横須賀駅

明治22(1889)年6月に開業した横須賀駅。改築前の姿が比較的残った風格ある駅舎。日本でも数少ない階段のない駅で、その理由は、軍港への物資の積み下ろしが容易なことや、天皇行幸の際に天皇が見下ろされるようにするためにとの両説がある。



猿島

東京湾に浮かぶ最大の自然島。かつての要塞の島には日本に数カ所しか残らない「フランス積み」で築かれた城の建造物も。現在は、海水浴場があり、バーベキューもできるレジャー地として人気。三笠艦橋から定期船が航路し、10分ほどで着く。



うみかぜ公園

目の前に猿島を望む臨海のリゾートパーク。親水遊歩、芝生広場、円形花壇などがあり、市民の憩いの場となっている。よこすか海岸通りを北西に進めば、新鮮な海の幸、山の幸がいろいろ味わえる「よこすかポートマーケット」にも立ち寄れる。



明治、大正、昭和のトンネルが並ぶJR横須賀線田浦駅の七釜トンネル。横須賀方面からトンネルを抜けると海上自衛隊の護衛艦が目に見えこんでくる。



山並が海に迫る地形に鉄道や道路がつくられ、全国一トンネルの多い街となった横須賀市。複雑な地形は軍港の機密を守る上でも効果的だった。

SPOT



立ち寄り所

横須賀美術館

山と海に囲まれた自然豊かな場所に建つ美術館。屋上広場からの眺めもいい。「週刊新潮」の表紙で有名な谷内六郎の美術館やイタリアンレストランも併設。近くには日本遺産の観音崎砲台跡も【住所】横須賀市鶴居4-1【電話】046-845-1211【開館】10:00～18:00、第1月曜休館【入館料】一般310円(企画展は別料金) <http://www.yokosuka-moa.jp/>



Course ③
日本遺産③
鎮守府 横須賀・呉・佐世保・舞鶴
おすすめコース

徒歩

JR横須賀駅～ヴェルニー公園(ヴェルニー記念館、逸見波止場衛門など)～YOKOSUKA軍港めぐり～どぶ板通り～三笠公園(記念艦三笠)～よこすかポートマーケット～京急・横須賀中央駅

日本遺産の構成文化財一覧

- [1] 米海軍横須賀基地C1建物(旧横須賀鎮守府庁舎)
- [2] 米海軍横須賀基地C2建物(旧横須賀鎮守府会館所・横須賀海軍艦船部庁舎)
- [3] 米海軍横須賀基地B39建物(旧横須賀海軍工廠庁舎)
- [4] 海上自衛隊横須賀地方総監部田戸分庁舎(旧横須賀鎮守府司令官官舎)
- [5] 逸見波止場衛門/市民文化資産(建造物)
- [6] 東京湾要塞跡猿島砲台跡
- [7] 東京湾要塞跡千代ヶ崎砲台跡
- [8] 観音崎砲台跡
- [9] 走水砲台跡
- [10] 東京湾第三海堡橋遺物(兵舎・観測所・探照灯・砲側庫)
- [11] 市有形(歴史資料)
- [11] 「ヨコスカ製鉄所」「ヨコスカ造船所」刻印れんが
- [12] スチームハンマー(旧横須賀製鉄所設置)/国重文(歴史資料)
- [13] 米海軍横須賀基地1号～6号ドック(旧横須賀造船所第一号～第六号船渠)
- [14] 近代造船所建築図面資料/市有形(歴史資料)
- [15] 走水水源池(煉瓦造貯水池)/国登録(建造物)
- [16] 走水水源池(鉄筋コンクリート造浄水池)/国登録(建造物)
- [17] 逸見浄水場(緩速ろ過池調整室4棟、配水池入口2棟、ベンチュリーメーター室1棟)
- [18] 七釜トンネル
- [19] 横須賀港周辺の絵図
- [20] 記念艦三笠(海上自衛隊横須賀地方総監部旧三笠艦保存所)
- [21] 鎮守府のラッパ

日本一トンネルが多く見所も多い軍港都市

日露戦争で司令長官の東郷平八郎が乗艦し、日本を勝利に導いた連合艦隊旗艦が「三笠」である。英国で建造されたもので、退役後に記念艦として大正15(1926)年、横須賀に設置された。その後、周辺は三笠公園として整備され、市民や観光客の憩いの場となっている。

周囲を山に囲まれた横須賀はまたトンネルが多いところである。その数は日本一。ホームが短く、車両の一部がはみ出すことで知られるJR田浦駅には三つのトンネルが並ぶ。

明治の横須賀線開通時に開削されたもの、大正の複線化による増設、そして昭和の軍需輸送強化のために施設された引込線開通に伴うものと、横須賀の発展の記憶とも密接に連動している。

鎮守府・横須賀は、明治以降、近代国家として歩み始めた日本の躍動感をいまに伝える港町。海軍や米軍の文化を吸収しながら醸された独特な雰囲気を訪れる人々を魅了する、全国的にも稀有な街であろう。

古代東海道が通っていた 日本武尊東征ゆかりの地

走水神社

はしりみずじんじや



走水神社の境内から海が望める。東京湾の出入口である浦賀水道で、潮流の速さと船の通行量の多さもあって、現在でも海の難所である。



高台に鎮座する走水神社の紋は橘の花が模されたもの。境内には橘の木も植えられている
【住所】横須賀市走水 2-12-5 【電話】046-844-4122 <http://www12.plala.or.jp/hasirimizujinja/>

弟橘媛命が身を投じた数日後、櫛が流れ着き村人は櫛を納め橘神社を建立。明治に走水神社と合祀された。境内には弟橘媛命が彫られた碑も。



記紀によれば、父・景行天皇より東征を命ぜられた日本武尊（『古事記』では倭建命）が、三浦半島から房総半島に渡るうとしたときに暴風雨に遭つ。同行していた妃の弟橘媛命（『古事記』では弟橘比売命）が、嵐が静まることを念じ自ら海に身を投じると、海は穏やかになり、一行は無事、渡ることができたという。上総に渡つた日本武尊は弟橘媛命を偲び、その場を立ち去ることができなかった。そこから君去らず、すなわち「木更津」の地名が生まれ、一行が船出した場所を、走るように海を渡つたことから「走水」と呼ぶようになったという。『古事記』には尊が「君さらず袖しが浦に立つ波のその面影をみるぞ悲しき」と詠んだとも記されている。

記紀が編まれた時代、古東海道は鎌倉、逗子を経て、海

岸沿いに三浦半島を南下し、葉山辺りで山を越えて横須賀の走水から海路で房総半島に至るルートを通っていた。走水から海を眺めると、目と鼻の先に房総半島が望める。対岸の富津岬までの距離はわずか7キロほどである。

鎌倉時代には三浦半島を領する三浦氏と、房総半島を支配していた千葉氏とは姻戚関係にあった。海を挟んだご近所感覚だったのだろう。

戦国時代には房総半島の先端、安房の里見氏がしばしば海を渡り、小田原北条氏との合戦に及んでいる。日本武尊が「こんな小さな海はひとまたぎだ」とあなどつたのも無理はない。

日本武尊の冠を村人が埋め、そこに創建されたのが走水神社である。日本武尊と弟橘媛命の2柱は祭神としていまも走水の海を見守っている。